

ヨミタイ!をくすぐる

図書館発 ライブラリーマガジン

立正 本遊

10周年記念特別号

0 (00) . (00) . 10 10 0 10

© 少納言



What's ほんずさみ 本遊?

ほんずさみ
【本遊】とは、

歌を口ずさむように、
本に親しみ、本と遊んでほしい

という願いを込めて付けました

本遊のバックナンバーは立正大学学術
機関リポジトリで公開しています。



立正本遊 りっしょうほんずさみ

10周年記念特別号

令和4年3月30日発行
編集・発行 立正大学図書館
品川学術情報課
〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16
TEL: 03-3492-6615
HP: <https://www.ris.ac.jp/library/>

* 図書館情報 *

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、
図書館では既存のサービスの制限や新規サービスの開拓を行なっています。
詳しくは、右のQRコードから図書館ホームページをご覧ください。



女正
本遊

十周年記念特別号

女正
本遊

十周年記念特別号



刊行の辞

十年一貫、本遊創刊号の刊行の辞にもありますように、約十年前の二〇一一年に東日本大震災が発生し、大学の開講が五月となりましたが、よもや大学が完全にロックダウンする事態など誰が予測しえたでしょうか。新型コロナの早期収束も望まれるところですが、津波により壊滅的なダメージを受けた福島第一原発は未だ燃料デブリの取出しが難航し、廃炉に向けての光明が見えない状況です。二〇一八年の西日本豪雨、二〇一九年の台風十九号による未曾有の大被害は記憶に新しく、今後は富士山の大噴火、東京直下型地震や南海トラフ地震も危惧されています。

立正大学は日蓮宗の教育機関であった飯高檀林をその起源としますが、宗祖日蓮聖人が生きた鎌倉時代は、まさに疫病や地震により庶民が苦しんだ末法の時代であり、現状とかぶるところがあるといえましょう。日蓮聖人は、来る蒙古襲来を予言し、この国難を救うには、法華経唯一への帰依こそ肝要であると説き、北条時頼に宛て、立正大学の名の由来となったかの「立正安国論」を著したわけですが。しかし、鎌倉に帰依した幕府からの排斥にあい、松雲谷法難、小松原法難、伊豆法難、龍口法難の四つの法難を経験し、何度となく命の危険に晒されるも、法華経こそ諸経の王との信念を曲げず不撓不屈の精神でその生涯を法華経の広宣流布に捧げました。

そして幕府への諫暁が聞き入れられなかった後は、「三度諫むるに用いずば山林に交われ」との「礼記」の故事に倣い、波木井兼長公の招きに応じ甲斐の身延山に草庵を結び、法華経の普及に努めました。蒙古の大軍は撤退し、その点では日蓮聖人の予言は外れたとはいえ、時頼の子で指揮をとった相模太郎時宗はわずか三十二歳で早逝し、鎌倉幕府が弱体化し、北条家滅亡の原因となったことは疑いのない事実でしょう。

一方徳川家康の江戸幕府創設に当たり、天台宗の天海僧正が大きな役割を果たしたことは有名ですが、家康の側室で、徳川御三家の紀州と水戸の初代藩主、頼宣と頼房の生母となり、日蓮宗を篤く信仰したお萬の方の存在も忘れてはならないでしょう。七面大明神を祀る霊山として名高い七面山は、身延山の裏奥門の方角にあり、お萬の方は麓にある白糸の滝で身を清め女性として初めて七面山を登詣して女人禁制を解き、その意味では女人成仏を説いた法華経の根拠経多品第十二の教えを自ら体現したといえます。ちなみに私も七面山には八十五回登っておりますが、平家以来の武家政權で約二百六十年にも渡る太平の世を初めて築いた徳川家の繁栄の陰に、お萬の方の功績があったというのは穿ち過ぎでしょうか。紀州家からは後年中興の祖となった八代將軍吉宗が誕生し、最後の將軍慶喜も水戸の斉昭の子供です。無論最後の將軍となってしまいましたが、江戸で薩摩藩士を使い狼藉を働き慶喜を挑発した西郷と大久保は明治維新後非業の死を遂げ、公卿となり悠々自適の生活を過し七十六年の天寿を全うした慶喜とどちらが幸せであったか、いうまでもないでしょう。

閑話休題、「ヘンは剣より強し」といいますが、度重なる迫害を物ともせず、法華経の広宣流布に生涯を捧げた日蓮聖人の生き方はまさにこれを体現したものです。大学におけるヘンの象徴は図書館であり、その意味で本学図書館は日蓮聖人の思いを実感できる場といえます。昨半本学図書館はコロナ禍における図書館利用促進への様々な取組が評価され、図書館総合展で最優秀の文部科学大臣賞受賞の栄誉を達成致しました。今年も立正大学創立百五十年、また日蓮聖人の代表作で、「我日本の大柱とやらむ、我日本の眼目とやらむ、我日本の大船とやらむ」との誓いを説いた「開目抄」が世に出る七百五十年という記念の年でもあり、是非とも学生教職員の皆様にはより一層図書館に足を伸ばし頂ければ幸いです。

立正大学図書館長

経営学部教授

山本 貴啓



発刊十年に寄せて

「立正本誌」は、二〇一一年四月二十五日に創刊いたしました。当時の図書館センター長の「未曾有の大震災がありました。学生の皆さん大丈夫かな?と細くしていないかな?こんなこと、学生にとり大学は心の拠りどころ。授業が始まった図書館としてさほど迎えてあげよう。」のつぶやきから始まり、現在に至るまでその考え方を常に意識の基として学生教職員対応しております。

二〇一二年といえは、三・一一東日本大震災があり、立正大学においても新学期の開始も五月に延期され、混乱を極めておりました。そんな中においての創刊は、大変な苦勞があったと推察されます。そこから十年の歳月送られること無く発行が継続できたのは、学修の場研究の場自己発見の場として図書館を利用されている学生教職員の「理解の賜物と感謝いたしております」。

「本誌」という言葉は造語です。歌をロザキとむように、本に親しみ、本と遊んでほしいとの思いを込めて創られました。これは文字に託された学術研究や最新の文化や情報に図書館を通して親しみ活用してほしい思いと詰み寄ることができると思っています。

現在図書館においては、利用者の要望に応えるべく様々な対応を行っております。勿論基本的な図書館の利用方法や目的の書籍の探し方からPCの使い方の論文の書き方まで各種相談に乗れる体制を構築してきました。また、二〇一四年五月には、専門図書館として開架を中心とした古書資料館を開設しより充実を図っております。

「本誌」においても図書館の動きを継続記事や特集記事にて都度案内をしております。創刊当初から「としよかん」のたからもの「コーナー」では図書館蔵書の貴重本や絵画を手裏紙で紹介しより興味が持てるよう、「論文書くときなに読んだ?」コーナーでは課題レポートや卒業論文を書く際にどんな本を参考にしたかの紹介など、より具体的に身近に感じられるような内容になるよう意識しながら紙面を構成してきております。常に利用者に解りやすい紙面づくりに努めて参りました。

また、本誌を語るうえで欠かせない存在が「りぶたま」という図書館学生アルバイト組織です。卒業するまでに社会人として物の見方考え方や自らの考えで行動できる力を身に付けてほしいと二〇一二年に発足した会です。メンバー発案の企画やページレイアウトなど学生らしい斬新なアイデアや紙面を飾ることもしばしばあり、本誌進行の欠かせない戦力になっており頼もしい存在です。

二のようにサービスを提供する側とされる側の両方の視線から紙面が構成されているのが「本誌」です。

二二に創刊十年を迎えて改めて「寄の論壇」である図書館の持つ意義や利用方法など本誌を通じて紹介していくことを決意したと二です。以上で次の十年へのスタートの言葉をとせていただきます。



立正大学
図書館部長
室井忠彦

memo



本遊“らしい”メモです。
プリントして切り取ってお使いください。

MEMO



20	19	17	15	13	9	7	3	1
編集後記	図書館受賞履歴	本遊見方紹介	図書館で働くひとびと	コーナーいまむかし	バックナンバー大公開	本遊年表	目次	刊行の辞

目次



本遊とは？

本は娯楽として読むのももちろん、研究のため、調査のための資料としても使います。むしろ大学図書館は後者の使われ方がメインになるころ。学業になくてはならないものが本、そして読書です。大学の智が集約している場所が、大学図書館です。

でも...



高校までの図書室と違って
敷居が高そう



静かに勉強するのは
苦手だから行かない！



ネットで調べれば出てくるし、
本なんて必要ないでしょ？

そんなイメージで図書館を使わないのはもったいない！！
図書館のあり方は、時代と共に変化しました。
利用者のニーズに合った図書館を常に追い求めながら、今の図書館は成り立っています。
大学図書館という空間・蔵書・サービスを楽しみながら有効活用してほしい。
そんな想いから生まれた、それが**本遊(ほんずさみ)**です。
まずは本誌を読んで、図書館活用の第一歩を踏み出してください。

本遊年表

本遊がどのような経緯を辿り今に至るか、跳び双六のような年表にまとめてみました。

START

はじめは、ふたつの思いでした。「貴重書をお披露目できる定期的な展示の計画、その広報を兼ねて何かを発行したい」「他大学図書館への出張の時に見た図書館広報誌のような、学生が知りたい情報を発信できる広報誌を作りたい」それぞれの「やりたい！」がちょうど重なり、立正大学の図書館広報誌発行の企画が立ち上がりました。



たくさん案を出した中から、キャッチフレーズは「ヨミタイ！をくすぐる図書館発ライブライブラリマガジン」に決まりました。

2011年4月25日

創刊号発行！



発行前にまずすることは打ち合わせ。発行日はいつか、部数はどれくらいか、内容やページ割りはどうするか…。各ページの担当者が記事の内容からレイアウトまでを担い、それを合体させて、本遊が組みあがっていきます。

フリーペーパーをたくさん集めて情報収集。どういうレイアウトが読みやすいか、リニューアルを前に練り直します。

2011年3月

創刊号の構成がほぼ決まり、当時の図書館長に「つぶやき」コーナーを依頼。大震災後、図書館も閉館を余儀なくされていた時に、学生のことを思う館長の気持ちと発刊の思いが一致して、つぶやきの連載を快諾いただけました。

2013年4月

3巻1号では紙面の大幅リニューアルを行いました。
①ページ数が6ページから18ページに増量、横書きから縦書きへ変更
②紙色を藤・さくら・若草色の3色展開で春らしさを演出
③刊行時期を年2回(4月・10月)に決定

おおよそ発行の1ヵ月前半から原稿作成が始まります。原稿確認・修正を経て校正を進め、印刷・製本し、発行の流れを辿ります。

2020年8月

10巻1号は感染症対策特集号と題し、制限下でも受けられるサービスや図書館で行っている拡大防止対策を紹介しました。大変な時だからこそ、図書館では何が出来るかを話し合い、予防と利用の両立を図っています。

お知らせしたいこと、伝えたいことが多い分、文章量が増える一方…。読みやすいレイアウトとの両立に悩む日々です。

2017年6月

7巻1号からはより手取りやすく、最新情報をすばやくお届けできるように身軽な図書館情報誌としてリニューアル！刊行時期も年3回(夏・秋・春)に増えました。

2014年4月

4巻1号は11号館・8号館・6号館の館内リニューアル特集号と称し、機能や設備を紹介しています。このころから「編集長」の役割が生まれ、本遊全体のレイアウトが統一されました。より洗練されたデザインになっています。

2016年12月

6巻2号のりぶたま特集号では、図書館が考える学生協働について、りぶたまの歩みを通じて紹介しています。今では図書館に欠かせない存在として認知され、先生方や他部署職員からも「りぶたまちゃん」と親しみを込めて呼ばれています。

2015年5月

『古書資料館通信』創刊号発行
本遊掲載コーナーのいくつかは、古書資料館通信に移行されました。

熊谷キャンパスに勤めている職員の方から、「熊谷図書館の情報も載せてほしい」と要望が。熊谷図書館の職員にも記事提供を依頼するようきっかけになりました。

2021年7月

11巻1号からは「論文書くときに読んだ？」のコーナーがスタート。卒業論文やレポート執筆のために何を読めばいいのか、そもそも研究テーマ選びから悩んでしまう…。そんな不安を解消できればと、代わりにセンパイへ「なに読んだ？」と聞いてみました。

GOAL

10周年記念号刊行

これからも読者の皆さんのヨミタイ！をくすぐる図書館情報誌としてお知らせを発信していきます！

コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、配布を取りやめ、PDFデータを図書館HPに掲載する方法に切り替えました。おかげでペーパーレス化が進み、怪我の功名！





5巻2号 2015.9.24発行



4巻1号 2014.4.1発行



2巻2号 2012.9.24発行



1巻2号 2011.7.15発行



6巻1号 2016.4.1発行



4巻2号 2014.12.5発行



3巻1号 2013.4.1発行



1巻3号 2011.10.11発行



6巻2号 2016.12.1発行



5巻1号 2015.4.30発行



3巻2号 2013.10.1発行



2巻1号 2012.4.3発行

バックナンバー 大公開

本遊の表紙に隠された法則、皆さんはご存知ですか？その年の干支のイラストをメインに据えています、その数は通号の数を意味しています。「読んでみようかな」という気持ちになってもらうべく、発行時期に合わせた季節のイラストなどで、目に留まるような明るい表紙を目指しています。
今回、通号27号分すべての表紙を一覧にしてみました。各号の背景色の緑色は特集号、黄色は通常号をあらわしています。1番のお気に入りが見つかったら、ぜひ中身もご一読ください！



創刊号 2011.4.25発行

本遊の代名詞ともいえるこのウサギ。創刊号の表紙を飾っています。筆ペンで書かれた題字と干支のイラストを携えて、最初の1冊が発行されました。通号27号のうち、13冊は特集号として、注目ボックスをまよめて取り上げています。時代に合わせて変化し続ける図書館の娯楽を辿るのも面白いかもしれません。

CHARACTERS

表紙の干支や「図書館日めくり」コーナーのラマダなど、本遊に登場するイラストの多くは、図書館の学生アルバイトである「りふたま」が手がけています。こちらはごく一部ですが、描き手それぞれの特徴が出ていますね！館内にもりふたま作のイラストがたくさんあります。ぜひ探してみてください。



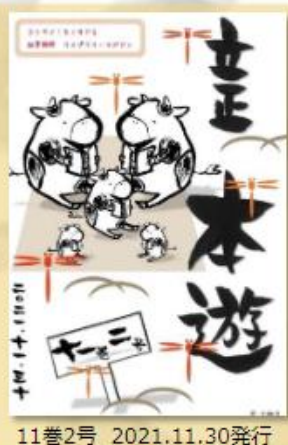
9巻1号 2019.7.30発行



8巻1号 2018.7.30発行



7巻1号 2017.6.6発行



11巻2号 2021.11.30発行



10巻3号 2021.3.25発行



10巻1号 2020.8.18発行



9巻2号 2019.11.29発行



8巻2号 2018.11.30発行



7巻2号 2017.10.17発行



11巻3号 2022年発行予定



11巻1号 2021.7.30発行



10巻2号 2020.12.28発行



9巻3号 2020.3.25発行



8巻3号 2018.3.29発行



7巻3号 2018.3.30発行

としょかんのたからもの

The treasurer of Kissho University Library

「としょかんのたからもの」は5年の間、part1からpart10まで、計31点の所蔵資料をご紹介します。



『小宇宙鑑』1冊
レメリン
アウグスブルク刊
1619年

Rhemelin, Johann.
Cosmopium
microcosmicum....
Augsburg, 1619.

「としょかんのたからもの」
「シリーズ 図書館の天敵」の2つの
コーナーは、2015年5月に発行を開始し
た『古書資料館通信』に移りました。

専門員による主筆で
年2回刊行しています。
図書館HP等でご
覧いただけます。



vol.12まで
発行してるよ!

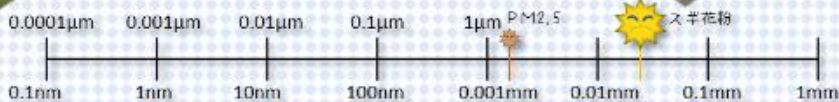


シリーズ 図書館の天敵

快適に図書館を利用するために
Natural Enemy of library

「シリーズ 図書館の天敵

快適に図書館を利用するために」
では、あえて天敵に注目すること
で、図書館が何に気をつけて
日々の対策を行なっているかを
知ってもらおう人気企画でした。



カビは微生物の1種類で、真菌(カビ・酵母・キノコ)の仲間です。
胞子は3~5µm(マイクロメートル)で目には見えません。
菌糸になると50~100µmほど目に見えるようになります。
※1µmは1000分の1ミリメートル

電子顕微鏡

光学顕微鏡

虫の目

カビ菌糸の直径

カビ胞子の長さ

酵母

細菌

ウイルス

原子分子

図書館掲示板

ヨミタイ!!
をくすぐる **最新情報**

2つのコーナーは、図書館がこれまで
にやったことの報告、これからやる
ことのお知らせをまとめています。「こ
のページを見れば「いま」の図書館
がわかる」を目指して、最新のサー
ビスや講習会の報告など、利用者
の皆さんに今知ってもらいたいこと
を載せているので、ぜひチェックしてく
ださい!



熊谷図書館情報も
このページにまとめています。



種類が豊富なコーナーも本館の魅力
のひとつです。これまでネタが
無い!と嘆いたことは一度もなく、
むしろ収まらない!と頭を抱えな
がら編集しています。実は、創刊
号からずっと変わらず連載を続け
ているコーナーは「つぶやき」だ
けだと思っていましたか?
過去、そして今に続くコーナーの
数々を覗いてみてください!

世界の図書館

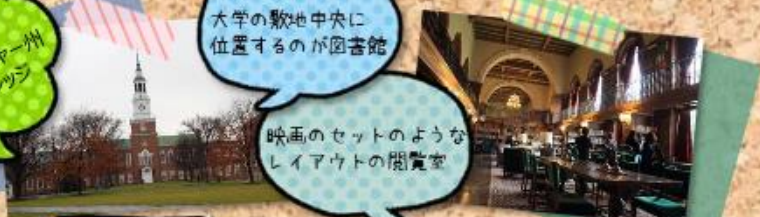


3巻2号まで連載していた「世界の図書館」。当時の図書館職員が在籍し
ていた研究会や協会で、世界の図書館を見学する研修会がありました。
コロナ禍ではそういった機会もすっかりなくなり、寂しいばかりです...。
過去、いくつもの図書館を訪問しましたが、そのうちアメリカとブルネイの図書
館をピックアップ! 仕事のみならず、気軽に旅行に行くことも難しくなった今
ですが、写真から海外の華やかな雰囲気を感じてみてください。

アメリカ合衆国
ニューハンプシャー州
ダートマスカレッジ

大学の敷地中央に
位置するのが図書館

映画のセットのような
レイアウトの閲覧室



アメリカ合衆国
マサチューセッツ州
マウントホリヨーク大学



小さな女子大ながら、
荘厳な図書館外観

おしゃれなカフェや
くつろぎスペースも



ブルネイ・
ダルサラーム
大学図書館



資料整理担当

めじるし：図書・雑誌がたくさん乗ったブックトラック
主な業務：図書や雑誌の登録・整理
いる場所：書庫など

緑の下の力持ち！図書館の構成要素「資料」を支えるうえでなくてはならないお仕事です。

りぶたま

めじるし：緑のエプロン
主な業務：レファレンス補助業務、RiLLPort企画立案・管理、館内巡回、図書装備、補修など
いる場所：図書館内、RiLLPort

様々な学部から「図書館で働きたい！」と応募してくれた学生の中から、倍率の高い面接を経て選ばれたアルバイトです。「Librarianの卵」という名前の由来通り、図書館のテクニカル面とパブリック面双方の業務を担っています。

学生ならではの視点で図書館を使いたいときはこのひとに聞こう！

職員

主な業務：資料選定、発注、受入、目録、検取確認
レファレンス、広報、外部組織や業者とのやりとり
各スタッフやアルバイトとの打ち合わせ etc...
いる場所：11号館B1F事務室

学事課や学部事務室の窓口にいる大学職員。もちろん図書館にも職員が務めています。図書館は働くひとがたくさんいる分、目立たない存在かもしれません。たくさんのひとびとが働く図書館の管理をしたり、運用を決めるのは職員のお仕事。やることが次から次へと湧いてくる大変さがありますが、同時にやりがいと達成感にあふれる職場です。本遊などの広報誌も、職員が作成しています！

調べものの視野を広げたいとき、困ったときはこのひとに聞こう！



本当のLibrarianとして働いているりぶたま卒業生もいるよ！



文献複写や相互貸借、研究調査を手助けするレファレンス担当は、職員が担っているよ！



図書館を構成する要素とはなにか、知っていますか？
ひとつめは「資料」。
ふたつめは、資料を利用する「利用者」。
みっつめは、資料を整理、保存して利用に供する場としての「施設」。
よっつめは、施設に在中し資料と利用者をつなぐ役割を果たす「図書館員」。
これらすべてがそろって、図書館の機能を実現することができます。どれかが欠けたら図書館が成り立たなくなってしまう、それぞれがとても大事な要素です。本コーナーではよっつめの要素である図書館員に注目し、仕事内容の一部を紹介します。あなたが気になる「図書館で働くひと」は誰ですか？



図書館を構成する要素

図書カウンタースタッフ



めじるし：黒のスーツ
主な業務：図書館に関わる問い合わせ対応
貸出・返却・出納 館内巡視 各種申請受付
いる場所：1F総合カウンター、3Fカウンター、図書館内

図書・雑誌などの資料や図書館の使い方についてわからないことはこのひとに聞こう！

PCサポートカウンタースタッフ



めじるし：青いエプロン
主な業務：PCに関わる問い合わせ対応
ラーニングcommons関連対応
ノートPC・周辺機器 貸出・返却
いる場所：2F PCサポートカウンター

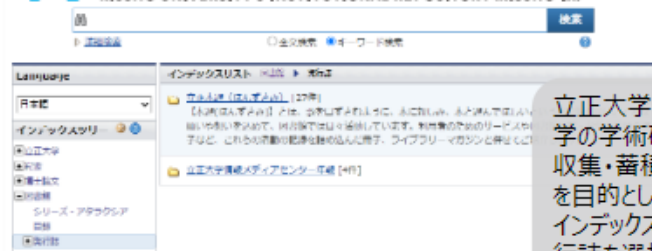
PCの使い方、印刷の仕方などについてわからないことはこのひとに聞こう！

学術機関リポジトリ



図書館ホームページのトップページ一番下の「関連バナー」から「立正大学学術機関リポジトリ」を選択します。

立正大学学術機関リポジトリ



立正大学学術機関リポジトリは、本学の学術研究成果及び教育成果を収集・蓄積・保存し、広く公開することを目的としたシステムです。インデックスツリーの「図書館」から「発行誌」を選択すると閲覧できます。バックナンバーの公開は、随時リポジトリに移行予定です。

desknet's NEO



立正大学教職員用ツール「desknet's NEO」からもご覧いただけます。インフォメーションから「情報環境基盤センター」⇒「学術情報課」を選択すると、簡単な内容を含んだ新刊発行のお知らせが掲載されています。

本遊の見方紹介 基本のキ 番外編

紙でのバックナンバーがご入用の際は、図書館カウンターまでお申し出ください！

図書館HPの見方紹介でおなじみの「基本のキ」。番外編の今回は、インターネット上で本遊を閲覧する方法を4つご紹介します！

図書館ホームページ



まずは図書館からのお知らせがすべて集約している図書館ホームページ。発行日には「新着情報」にお知らせを掲載しています。トップページ一番下の「注目トピックス」には本遊ページへの直接リンクが貼ってあります。本遊表紙の画像をクリックすると、見開きのPDFが閲覧できます。

スマートフォンからでもご覧になれます！

ポータルサイト



学生生活を送るうえで欠かせないポータルサイトからも、本遊を見ることができます。Myツール「キャビネット」から「2.学修支援」⇒「2.ライブラリーサービス」を選択し、フォルダ名から「立正本遊」をクリックします。見開きのPDFをダウンロードすることができます。

編集後記

10周年記念号の締めくくりは、現在の担当編集3名による編集後記です。それぞれの持つ本遊への熱い思いをぎゅっと詰め込んだ1冊になりました。これからの本遊もぜひお楽しみに！！



本遊10周年という記念すべき年に編集を担当でき、とても嬉しく思います。

立正大学図書館の利用方法や最新情報はもちろん、学生生活を豊かにするために役立つ情報を気軽に楽しく知ることができるのが本遊の良さだと考えております。そのため、編集では「明るく、見やすく、簡潔に」という点を心がけています。内容やページの色味をどのようにするか考える時間はとても楽しく充実した時間だと感じています。これから先も長く、より多くの方に本遊を楽しんでいただけるよう10周年以降も頑張ります。



10周年記念号発行にあたり、創刊号から最新号の内容を振り返ることはもちろん、発行に至るまでの経緯や過去を知る必要がありました。先輩にインタビューをすることで、時代とともに変化していった図書館に合わせ、本遊も多様になっていったことを知りました。

本遊は、たくさんの方に支えられて、今に続いています。学生の皆さんが図書館を活用してくれること。先生方が蔵書を使った勉強会などを提案くださること。他部署の職員の方から「本遊読んでよ！」とお声がけいただくこと。それらのひとつひとつがとても励みになります。これからも時代に合った本遊をお届けできることを目指して、精進いたします。

この1冊が、皆さんの「ヨミタイ！」をくすぐり、図書館をご利用いただけるきっかけとなりましたら幸いです。



学生が気軽に手に取れる図書館の広報誌があつたらいいな、機会があれば作ってみたいと、当時の先輩職員に話したことがきっかけで創刊から編集に加わりました。振り返って印象に残っていることは、りぶたま presentsのページ作りです。ブックレビューの執筆から始まり、後にはコーナー全体のデザインからレイアウトまですべてを担当してくれました。図書館の利用者であり、協力者である学生の力も加わり、また手に取ってくださる学生・教職員のみなさんのおかげで、本遊は今まで続いてこられたのだと感じています。

創刊から早10年。これからも「歌を口ずさむように本に親しみ遊んでほしい」という願いがたくさんの方々に届きますように。

to be continued...

図書館受賞履歴

毎年秋に開催される、図書館界で国内最大の展示会である図書館総合展。館種を越えた交流や情報交換を行うことができ、毎年、品川・熊谷図書館、古書資料館それぞれが、様々な企画に参加しています。地道な活動が全国に「立正大学図書館」の名前を広める一助になることを信じて、継続して取り組んでいるものひとつです。本コーナーでは、過去の図書館総合展で本学図書館が賞をいただいたものを一覧にしました。



2017年 **ポスターセッション 優秀賞** (古書資料館)
「ようこそ！触れて親しむ古書資料館へ」



2018年 **ポスターセッション 最優秀賞** (古書資料館)
「和古書の魅力を世界へ 和古書の魅力をあなたも」

2019年 **ポスターセッション 運営委員会特別賞** (品川図書館)
「立正大学品川図書館の学生協働」



2020年 **ONLINE見学会 3位入賞** (品川図書館)

2021年 **レファレンス大賞 文部科学大臣賞** (品川図書館)
「コロナ禍における非来館型サービスの拡充と Teamsを活用した調査体制の構築」



奨励賞 (古書資料館)
「コロナ禍における「開架で古書」「古書に親しむ講座」の実践から広がるレファレンスサービス」

コロナ感染対応図書館優良特別賞 (立正大学図書館)